

皆さん、まもなく水道橋山下クラスの本論編が開講します。
今年の合格者から体験記を頂きました。ありがとうございます。

■2024年 合格体験記 男性（58歳） 受験回数 5回

はじめに

まずは、山下先生、3年間大変お世話になりました。
合格までずいぶんと時間がかかってしまいましたが、「社会保険労務士はやりがいのある仕事だからぜひ合格すべし！」など、色々な先生の雑談（事例を印象づけて記憶に残すための雑談が多かったですが、受講生へのハッパをかける雑談も多かったように思います）から、山下先生の指導法に従って、合格するまで頑張ろうという強い気持ちを持ち続けることができました。また、同じ時期に山下クラスで努力しているメンバーとのほんの少しの接点がたいへん励みになりました。

加えて、毎日遅くまで残業する妻、大学院で勉強する子供たち、夫婦で暮らしている両親と皆元気で大きな事故なく過ごしてくれていたことでこの期間、学習に専念することができ感謝しています。

山下クラスを選ばせていただいた理由

受験1回目は独学（惨敗）、2回目は通信教育（他校）で択一は47点に届いたものの、選択の労一、社一、国年の3科目で基準点割れ（うち2科目は救済となり、結果1科目で未達）。

「三度目の正直」は通学で再チャレンジすると決め、申込後に初めて、乗り入れ制度を知り、水道橋の山下クラスに通学することに決めました。決め手は古い動画で「知識ではなく合格するための勉強法を教える」というお話だったと思います。

山下クラスでの通学することのメリット

(1)「点数問題」を意識した学習方法で「合格力」を身に付けることができること

通常の講義の中の「過去問分析・解き方講座」を皮切りに、5月の時期から始まる道場「点数問題100の法則」「試験に出る1・2・3」→直前講座「択一問題演習（解きまくり）」「徴収法」「前日講座」と山下先生の指導法はすべて「点数問題」をしっかり押さえることで「解答力」を高めることで一貫しています。

最初は「??」となりますが、試験では「点数問題」にマークした数が合格点を超えていれば、合格できると気づかされます（とても理論的）。

日々、試験で点数問題をいち早く見つけるトレーニングをすること、山下クラスはこれを徹底的に続けて、身に付けることがコツだと知らされます。これに試験での戦略（これも

山下先生の指導どおり、沢山ありトレーニングが必要ですが・・・) が身につくと択一式は絶対に落とすことはないという自信になりました。

(2)合格点を確保するための受験勉強に徹することができる

社会保険労務士資格試験を目指す人にもいろいろな動機があるようですが、「勉強する」ことは「面白い」ので知的好奇心が刺激されて、余計なことに引き込まれてしまうことが時々あります。特に模試などで「知らない知識」に遭遇するとどうしても気になって、調べて（結構、時間がかかる）、練習して、記憶すると時間をかけてしまいがちですが、先生の「満点を目指すな（高得点が目標ではない）」との言葉のとおり、本気で合格したいなら「合格点」を確保するための勉強法に徹することが大切（よく考えれば当たり前ののですが・・・）と説かれます。「山登り」の例えもとても分かりやすいと思います。これは現役社会人として、時間と体力に相応に限界があるたいていの受講生には特に重要なことと思います。

(3)通学するとより効果が高いこと

勉強時間の確保は「やる気」の問題以前に非常に苦労しました。平日は仕事ですし、残業もあって、休日も色々な付き合いがあります。まとまった時間ができたからといって、いくら気合を入れても、集中力の継続にも限度があります。

通学は「効率的ではない」ともいわれますが、やはり、強制的にリズムを確保できますし、教室で受講すれば、山下先生の指導、受講生とのやり取りや反応、雰囲気を感じることができること、「刺激を受けられる」ことが最大のメリットではないでしょうか？

頭で理解できることと実践できることは違う次元の話だと思います。刺激を受けることで、自分の行動（勉強方法）に自信が持つことができたり、これはまずいと次の瞬間から変える（実践する）ことができました。

選択式対策で苦労した点と、うまく行った点

(1) 学習方法に手触り感がもてない

山下クラスで択一式対策は万全（自信を持って進められる）。一方、選択式対策はいろいろと試してみたものの（テキストの読み込み、数字や行政機関の暗記、条文の書き写し、単語カードなど）、最後の最後まで迷いがありました。戦績も山下クラス1年目の3回目で雇用と社一で基準点割れ、4回目は厚年で基準点割れと厳しい状態が続きました。

(2) 山下クラスでの3年目の学習方法

3年目（5回目の受験対策）でやっと気が付いたのですが、選択式も解き方（問われ方）があること。例えば、山下クラスでは「語群からまず見る」のは問題を解くときの鉄則ですが、何より過去問でどのような語群が使われているかよく見る（研究する）こと、択一式の過去問とも相互に関係があることを実感できたことが一番効果がありました。問われ方に「答えはこんな感じかな」と手触り感が出てくると、テキストの読み込みも数字の暗記の時も、いつも「ここがこう問われるのでは」とメリハリが付き、頭への入り方も変わり、「解答力」の強化につながったのではと思います。

(3)試験対策

合格できた今回の試験の選択式でも3点の科目もありました(労基と労一)。今回は初めて、「3点以上確保出来た(と思ったら)ら次の科目に進む」を本当の意味で実践できました。次に進める自信の裏付けは(2)の「こんな感じかな」という手触り感を身に付けたことだと思います。結局、それでカンも働き(山下先生の言う「勢い」?)、道場の直前講座も役立った。精神的にも時間的にも余裕もできて、事例問題やそれでも自信のない問題をじっくり考えることができ、初めて、全科目基準点が割れ回避ができたのだと思います。

合格できたので言えること

(1)日頃の学習方法、戦略が一番大切

これは山下先生もよく言われるとおり、学習方法は試験を常に意識して学習することが一番大切。この学習方法、スケジュールの組み方等は山下クラスに通学すれば、具体的に確実に進めることができる。あとは何とか時間を確保して、過去問を中心に試験での問われ方を意識してトレーニングを続けることで択一式も選択式に関わらず、解答力が身に付き、合格できると思います。

(2)本試験は思いのほか緊張すること(上がってしまう)を忘れないこと

実は4回目も自己採点では選択式の基準点割れはありませんでした。ところが結果は不合格、マークミスが原因でした。それから答練や模擬試験では指差しでマークを点検するなど、細心の注意を払っていましたが、試験では最後に残した「3点確保に自信が持てない科目」をじっくり考えることに時間を取られ、最後にマークの見直しをすることが「すっかり頭から飛んで」していました。気が付いたのは自己採点をしているとき。「しまった」と大後悔して、すぐに年金講座を申し込んで、緊張感をキープしながら、合格発表日まで悶々と過ごすことになりました。試験当日は思いのほか緊張する(上がってしまう)のでいつもは当たり前のことができなくなる(むしろ受験回数を重ねるほどひどくなった??)ということを常日頃、強く意識してトレーニングを積む必要があると思います。

今後について

社会保険労務士試験合格はやっと次へのステップを進めることができたというのが正直な気持ちです(解放感がありますが、達成感や満足感は意外とありません)。今後は山下先生や山下クラスと一緒に苦勞した合格者・受講生のみなさんとも時々、情報交換をさせていただきながら、まずは登録を済ませて、社会保険労務士として、具体的な活動を始めたいと思います。ありがとうございました。

以上

■11月本論開講です

来月11月10日山下クラスの本論が開講します。最初は労働基準法の解き方講座です。問題集をしっかりと見ましょう（注意：問題は解きません！！）。解き方の講座です。条文の仕組みや試験の傾向を見ていきます。

11月17日（日）から本論編が始まります。平日は11月12日（火）13日（水）が解き方講座開講です。山下クラスの日程を参考に勉強のスケジュールを立ててください。下記は初学者の方も参考にしてください。

山下・・・今年で講師30年を過ぎました。自分の講義は勉強の話や、社労士の実務や歴史の話と「雑談」が多い講師です。特に法律制定の歴史等をお話しします。

1. 受験アドバイス

心構え → 受験生になる → 合格への条件 → 山下式に賭ける

- | | |
|------------|-------------------------|
| ① 心構え | 受験生になりきること。試験に出る個所を勉強する |
| ② 受験生になりきる | 相手を知り、作戦を練る。過去問を徹底して解く |
| ③ 合格への条件 | 勉強できる今は人生最大のチャンス |
| ④ 山下式に賭ける | 弱気は禁。絶対合格の4文字だけに |

【学習アドバイス】

■初学者

受験勉強にはいろいろな方法があります。試験科目全体の法律の量は膨大です。しかし、社会保険労務士試験で問われる内容は有る程度限定されています。基本事項をしっかり押さえ、試験で問われているポイントを勉強しましょう。学者になってはダメ。難解な個所は無視。合格に必要な知識を確実に身に付けましょう。これが短期合格の方法です。

★初めての方への質問

- ・科目の配点を確認しましたか？
- ・1年で合格するという意気込みがありますか？
- ・長期のスケジュールが組み立てられますか？
- ・仕事と勉強の両立は可能ですか？
- ・家族等の理解がありますか？
- ・試験に向けて勉強を始めましたか？

一番大事なのは「自己管理能力」です。今年絶対合格するという気持ちで学習しましょう。最初から全てを理解し、記憶することは必要ありません。まずは、法律用語等に慣れるこ

とです。繰り返し教科書を読むことから始めましょう。多少の疑問点があっても先に進むことです。受験勉強をしていく中で受験生は立派に成長していきます。

時間が無い・業務が忙しい・暗記が苦手・勉強の場所が無い・今年は練習・知識を学べれば十分等は禁句です。マイナスの発想はマイナスです。

受験は一種の戦いです。作戦をしっかり組立てスケジュールを組み、毎日1時間でも継続して学習を行うことが大切です。本試験までの年間スケジュールの大枠を決めましょう。受験勉強開始後の忘年会、新年会、年度末の予定もスケジュール作りに折込済みにします。長丁場の戦いです。

■再受験生・・・失敗は反省の上に成功が有り悔しさをバネにする

今年の試験結果分析してください。前回の1.2.3を受講された方は必ずチェックしてください。再受講生の方はモチベーション管理が大事です。受験を決めた以上最初の目的を見失わないこと。再受講生のなかには複数回の受講生の方もいるでしょう。今年の試験でも択一式は40点以上取れているが、選択式が取れず再起をかける方もいると思います。決してあと数点だから直前に追い込めば何とかなるはダメです。今年の勉強量の1.2倍は必要です。前回勉強した知識や経験を無駄にしてはなりません。前回の受験をしっかりと検証し、反省の上にやるべきことをしっかりと決めましょう。講義は労働基準法から入りますが、別メニューで、弱点科目を年内徹底的に勉強しましょう。

基本的事項の再確認。法改正。体系、論理的理解をしっかりと地に足をつけた早期学習が成功を修めるカギとなります。反省の上に、いくつかの対策を講じておかないと、次の試験でも同じ事の繰り返しを行うこととなります。前回の自己分析をはっきりと行い、時間をかけて確実な合格するための学習を早期に立ち上げましょう。

ポイント

①今年の試験を検証したか。

②次回の試験の対策は

③得意な科目と苦手な科目

今までの勉強の中で何が足りなかったかしっかりと検証が必要です。例えば、文章の読み間違いが多い。基本事項が記憶されていない。問題量が少ない。時間配分が間違えている等・・・ということがあります。この試験は努力すれば合格できます。あやふやな100の知識より完全な50の知識で合格だと叫ぶのは、試験傾向がそうなっているからです。

★今回受験した問題を点検しましたか？

前回の自分の答案内容を細かく分析してみましたか？

1. 基本書のどこから出題されたのか
2. 答案練習の類似問題
3. 取れる問題で失点した箇所

★あなたの弱点科目は・・・経験者の強みを出していますか？

1. 基準点の科目
2. 受験前からの苦手科目・不安科目
3. 過去の模擬試験での点数と今回の点数の一覧表を作成する

★受験直前でやり残していたことを思い出して整理してください

不安ばかり頭に浮かんでいませんか？

1. 頭の中を直前期に戻し遣り残していた作業を書き出す
2. 数字・用語・横断整理等をチェックする

前回の本試験ではある程度点数が取れた。まあ直前期になってから頑張ればなんとかなるだろうでは、再びその時期での時間が足りなくなる可能性があります。直前期に入ると心理的な焦りや不安がでてきます。早期のうちから年間カリキュラムを作成し、勉強の方針を立て学習を進めてください。

★中上級（平日）11月

平日クラスは仕事帰りの方が多いです。皆さんの受験勉強のリズムを作りましょう。

通信講義の収録も教室で行っています。

11月前半は年金科目が続きます。国民年金と厚生年金の横断や健保と厚生年金の横断を行ってください。国民年金本論講座開講は平日クラスは4月11日です。そこまで継続して保険の科目（労災・雇用・健保・厚年等）の共通事項を繰り返し勉強してください。

目的条文⇒健保⇒国年⇒厚生年金

通則規定⇒健保⇒国年⇒厚生年金⇒労災保険⇒雇用保険

適用⇒健保⇒国年⇒厚生年金⇒労災保険⇒雇用保険

被保険者⇒健保⇒国年⇒厚生年金⇒雇用保険⇒社一

保険料⇒健保⇒厚生年金⇒国年⇒社一

不服申し立て⇒健保⇒国年⇒厚生年金⇒労災保険⇒雇用保険⇒社一

時効⇒健保⇒国年⇒厚生年金⇒労災保険⇒雇用保険⇒社一

11月	曜日	講義 科目	勉強のポイント
6日	水	年金⑦	19時から収録ですが、18時50分から雑談時間を10分取ります。学習アドバイス等を話します。
7日	木	年金⑧	
9日	土	17時～18時ガイダンス 選択式の分析	選択式分析のガイダンスは参加してください。 選択式5年分を検証します。
12日	火	労基法解き方講座①	労基法解き方講座で出題傾向を見ます。 誤り等の問題を研究します。
13日	水	労基法解き方講座②	判例や通達を学習します。この時期（11月）から判例に注意しましょう。
25日	月	労基法①	労基法と労働契約法、労働組合法を同時に勉強してください。受験生の最大難問科目は労働一般常識です。なぜなら勉強時間が少ないからです。少なくとも、労働契約法、労働組合法、均等法や育児関連科目は11月から勉強しましょう。

★中上級（休日クラス）11月

休日クラスは10時30分開講です。休日クラスは早めに教室に来てください。

自宅から学校までの時間は予習です。帰るときは復習です。この繰り返しが努力です。

講義10分前から何か話していることが多いです。

11月	曜日	講義 科目	勉強のポイント
9日	土	17時～18時ガイダンス 選択式の分析	選択式分析のガイダンスは参加してください。 選択式5年分を検証します。
10日	日	労基法解き方講座① 労基法解き方講座②	労基法解き方講座で出題傾向を見ます。誤り等の問題を研究します。判例や通達を学習します。この時期（11月）から判例に注意しましょう。
17日	日	労基法①	労基法と労働契約法、労働組合法を同時に勉強してください。受験生の最大難問科目は労働一般常識です。なぜなら勉強時間が少ないからです。少なくとも、労働契約法、労働組合法、均等法や育児関連科目は11月から勉強しましょう。
24日	日	労基法②	最初の5分は前回の復習。講義の最後はまとめ。 講義では社労士の仕事等の話もします。

★合格クラス（土）11月

土曜日クラスは初学者クラスです。私もなるべく分かりやすい講義を行ないます。とにかく初めて聞く専門用語ばかりです。許可、認可、承認等で始まります。

まずは労基法です。この科目で法律の仕組みに慣れましょう。条文、附則、規則等です。

山下と一緒に学びましょう。

11月	曜日	講義 科目	勉強のポイント
9日	土	労基法①② 17時～18時ガイダンス 選択式の分析	労基法は身近で分かり易い科目です。 予習は必要です。なにを学ぶのか講義の前に教科書を一読してください。昭和22年の年号が多い科目です。なにがあったのか？
16日	土	労基法③④	問題集も見ていきましょう。
30日	土	労基法⑤⑥	年次有給休暇や就業規則には多くの判例が出てきます。